

平成22年度病害虫発生予察警報第1号

平成22年8月5日
鳥取県病害虫防除所

警報の概要

果樹カメムシ類の発生が多いことから、病害虫発生予察注意報第3号(平成22年6月24日付)を発表し、防除の徹底を呼びかけているが、依然としてカメムシ類の発生量は多く、既に一部のナシ園ではカメムシ類による果実被害(無袋果実)が認められている。今後、無袋栽培のナシをはじめ、露地有袋栽培‘二十世紀’ナシ、カキ及びびりんごなどでも被害発生が懸念されることから防除を徹底する必要がある。

病害虫名：果樹カメムシ類

- 1 対象作物 果樹全般
- 2 発生地域 県内全域
- 3 発生時期 平年並
- 4 発生量 多い
- 5 警報発令の根拠

- (1) ナシでは、県東中部の一部の園(無袋果実、‘幸水’、‘王秋’など)で果実被害が認められている。
- (2) カキでは、県東部の一部の園で早期落果がみられている。
- (3) 7月下旬現在、主な加害種であるチャバネアオカメムシ、クサギカメムシ及びツヤアオカメムシの予察灯における誘殺数は平年と比較して多く、県東部調査定点におけるチャバネアオカメムシの7月下旬の誘殺数は、3,569頭(平年：284.1頭)と平年の約1.3倍となっている。
- (4) 警報を発表した平成16年の誘殺数を全調査地点において上回っている。
- (5) 今後、無袋栽培のナシをはじめ、露地有袋栽培‘二十世紀’ナシ、カキ及びびりんごなどでも被害発生が懸念される。
- (6) 向こう1か月の気象予報によると、今後も気温は高いと予想されていることから、カメムシ類の活動に好適な条件になる見込みであり、果樹園への多飛来が予想される。

6 防除上注意すべき事項

- (1) 被害や飛来状況は、ほ場間差が大きいいため、園内外をこまめに見回り早期発見に努め、被害果実やカメムシ類の発生が多い場合は早急に防除を行う(ネオニコチノイド系及び合成ピレスロイド系殺虫剤などを中心に選択)。特に、過去の多発年に被害を受けた地域では注意する。また、地域内で情報の共有を徹底する。
- (2) 防除は、カメムシ類が飛来する夕方か早朝が効果的である。ただし、薬剤が乾きにくい気象条件の時は夕方散布を実施しない。また、移動性が高いため、広域的な防除に努める。
- (3) 各樹種について計画的に追加防除を実施する。なお、露地有袋‘二十世紀’ナシにおいても、収穫前の防除を徹底する。
- (4) 合成ピレスロイド系殺虫剤の多用は、カイガラムシ類及びハダニ類の発生を助長した事例があるので、必要最小限の使用にとどめる。
- (5) 各樹種の防除薬剤は表1を参考とする。また、農薬の使用基準を遵守するとともに、使用上の注意事項を守り、散布作業等者の安全の確保に努める。

表 1 果樹カメムシ類の主な防除薬剤と使用基準*

| 作物 | 薬剤名 | 希釈 倍数 | 使用 時期 | 本剤の 使用回数 | 薬剤の系統 |
|-----|---|-------------------|----------------------------|--------------|-------------------------|
| ナシ | スプラサイド水和剤 | 1,500 | 有袋：収穫7日前まで 無袋：収穫45日前まで | 3回以内 2回以内 | 有機リン系 |
| | スミチオン乳剤 | 1,000 | 有袋：収穫14日前まで 無袋：収穫21日前まで | 6回以内 | |
| | ジノテフラン水溶剤 (アルパ [®] リ [®] 顆粒水溶剤又はス ターカ [®] 顆粒水溶剤) | 2,000 | 収穫前日まで | 3回以内 | ネオニコチノイド [®] 系 |
| | アクタラ顆粒水溶剤 | 2,000 | 収穫前日まで | 3回以内 | 合成ピレスロイド [®] 系 |
| | アグロスリン水和剤 | 1,000~ 2,000 | 収穫前日まで | 3回以内 | |
| | MR・ジョーカー水和剤 | 2,000 | 収穫14日前まで | 2回以内 | |
| カキ | スミチオン水和剤 40 | 800 ~ 1,000 | 収穫45日前まで | 3回以内 | 有機リン系 |
| | ジノテフラン水溶剤 (アルパ [®] リ [®] 顆粒水溶剤又はス ターカ [®] 顆粒水溶剤) | 2,000 | 収穫前日まで | 3回以内 | ネオニコチノイド [®] 系 |
| | アグロスリン水和剤 | 1,000 ~2,000 | 収穫前日まで | 3回以内 | 合成ピレスロイド [®] 系 |
| リンゴ | スミチオン水和剤 40 | 800 ~1,000 | 収穫30日前まで | 3回以内 | 有機リン系 |
| | ジノテフラン水溶剤 (アルパ [®] リ [®] 顆粒水溶剤又はス ターカ [®] 顆粒水溶剤) | 2,000 | 収穫前日まで | 3回以内 | ネオニコチノイド [®] 系 |
| | MR・ジョーカー水和剤 | 2,000 | 収穫14日前まで | 2回以内 | 合成ピレスロイド [®] 系 |
| モモ | スミチオン水和剤 40 | 800 ~1,000 | 収穫3日前まで | 6回以内 | 有機リン系 |
| | ジノテフラン水溶剤 (アルパ [®] リ [®] 顆粒水溶剤又はス ターカ [®] 顆粒水溶剤) | 2,000 | 収穫前日まで | 3回以内 | ネオニコチノイド [®] 系 |
| | アグロスリン水和剤 | 2,000 | 収穫7日前まで | 5回以内 | 合成ピレスロイド [®] 系 |

*農薬の登録内容は平成22年8月1日現在

(参考)



写真1 チャバネオアカメムシ成虫



写真2 クサギカメムシ成虫



ニホンナシ '王秋'

ニホンナシ '二十世紀'

写真3 果樹カメムシ類による被害果実